

2026年 夏号

No. 216

田園調布医師会新聞

調心記

会長退任にあたって

田園調布医師会 会長 内山 浩志



このたび、田園調布医師会会長を退任するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、在任中に多大なるご支援とご協力を賜りました会員の先生方、関係諸機関の皆様、そして地域住民の皆様に、心より御礼申し上げます。至らぬ点多々あったかと存じますが、皆様の温かいご理解とご尽力に支えられ、何とかその責務を全うすることができました。

近年、医療を取り巻く環境は大きく変化しております。とりわけ少子化の進行は、地域医療のあり方に深刻な影響を及ぼしつつあります。出生数の減少は小児科医療の需要構造を変え、従来のような量的拡大を前提とした医療体制では対応が難しくなっております。一方で、医療の質に対する期待はますます高まり、発達障害や慢性疾患への対応、予防医療、さらには子育て支援といった多面的な役割が小児科に求められています。

こうした中で、小児科医療は単なる「子どもの病気を診る医療」から、「子どもと家庭、そして地域全体を支える医療」へと進化していく必要があります。例えば、地域の保健・福祉・教育分野との連携をより一層強化し、妊娠期から学童期、さらには思春期に至るまで、切れ目のない支援体制を構築することが重要です。また、保護者の不安に寄り添い、安心して子育てができる環境づくりに医療が積極的に関与していくことも求められています。

さらに、少子化は医療従事者の確保という観点からも大きな課題を投げかけています。小児科医を志す若手医師の減少が懸念される中、働きやすい環境の整備や、やりがいを感じられる診療体制の構築が急務です。地域として小児科医を支え、育てていく取り組みが今後ますます重要になるでしょう。

田園調布医師会におきましても、これまで地域医療の充実に努めてまいりましたが、今後はこうした時代の変化に柔軟に対応しながら、持続可能な医療体制の構築を目指していく必要があります。特に、小児科を中心とした地域包括的な支援の仕組みづくりは、次世代への大きな責任であると感じております。

振り返りますと、在任中は感染症対策や医療連携の強化、地域住民への啓発活動など、多くの課題に取り組んでまいりました。その一つ一つが、地域医療の基盤を支える重要な経験であったと実感しております。これらの取り組みが、今後の医師会活動の一助となれば幸いです。

今後は一会員として、微力ながら地域医療の発展に貢献してまいりたいと考えております。そして、新たに就任される会長を中心に、医師会がさらに発展し、地域住民の健康と安心を支え続けていかれることを心より祈念しております。

結びに、改めましてこれまでのご厚情に深く感謝申し上げますとともに、田園調布医師会のさらなる発展と、皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。



巳年を迎えて

浅利 佑紗 (●●)

巳年の年女としてこのような機会をいただき感謝いたします。

そこで私たちが今、携わっております在宅診療について少しでも書かせていただこうと思います。

私はここまで大学病院、いわゆる中規模の病院、クリニック、健診センターなど、さまざまな医療の現場を経験して参りました。

その中で、今私が行う在宅診療は、第一に患者さんとそのご家族に寄り添うことをなによりも大切にしております。

医療者がやりたい治療ではなく、ご本人とご家族がどうしていきたくかを考えることが最優先事項になります。

これまで沢山のご家族に出会ってきましたが、それぞれに多様な思いがあり、何一つとして同じ答えはありませんでした。

まさに教科書通りではない現場です。

その現場での我々医療者の役割は、患者さんたちに寄り添いながら沢山の選択肢を提案し、一緒に答えを出すことだと思っています。

そのためには、机の上での新しい学びだけでなく、これまでの自分の経験が大切だということに日々気づかされております。

研修医の頃から今に至るまで自分が受け持たせていただいた患者さんたちを思いながら、私も改めて学びを深めていければと思っています。

これからも目の前にいる患者さんにご家族のために、この地域のために、みなさまの人生の最善の選択をしていけるお手伝いができればと思っています。

なお日頃から地域の方々や、医師会のみなさまからは、優しさとお力をいただき、改めて感謝申し上げます。

還暦？

杉浦 夏樹 (田園)

12 年前に酸いも甘いも経験した 48 歳と調心記に記した記憶からあつという間の時の流れ。その頃、人生の先輩方からは「まだまだドンドン、時が経つのは加速するよ」と言われたのは本当でした。それでも今や自分が還暦に達したなんて、若い頃には想像も出来ませんでした。同い年の幼馴染の会社勤めの友人達は定年の話が現実になり、これからどうしていく？がもっばらの飲んだ時の話題。医者はまだまだ現役でやれるのは幸せだなと思いつつ、家族を含め周りのサポートがあつての自分と本気で思えるのは、遅まきながら大人になった証拠か？更なる 12 年に向けて、まだまだ頑張ります！と言いつつ兎に角、何より穏やかに健康でやっていきたいな一と思うこの頃。(笑) 還暦だわな。納得。ご指導ご鞭撻のほど引き続きよろしくお願いいたします。

新しい年を迎えて

山本佳樹 (●●)

蛇さんは、それに会う経験も人生でなんだかありましたが、出会うと真剣にびっくりしますし、あまり出会いたくない生き物です。年賀状のイラストにしても気をつかいます。蛇は嫌われ者かと思いき

や、調べてみると意外にもこのように書いてありました。蛇は古代から再生や永遠の象徴とされ、皮を脱ぎ捨て新たな姿に生まれ変わる姿がその象徴。こうした意味から、巳年は新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示すと。また巳年に生まれた人は、蛇のように知恵深く、粘り強い性格を持つらしい。はたして自分に当てはまるかどうかはわかりませんが、そのように生きていきたいなと感じる次第であります。加えて蛇は救急車、WHO、日本医師会、アメリカ医師会などのシンボルマーク、ロゴマークにもみられ、特に有名なのは、Star of the Lifeと呼ばれるデザインだそうで、蛇は医学の象徴ですから干支の中でも我々医師にとって最も大事な仲間ということになります。

さて自分も60歳になろうとしておりますが、自分としては全くと言っていいほど実感が湧きません。身なりは還暦らしい白髪混じりの頭になっていますし、体力も40代のようにはいきませんので、気持ちとは裏腹にそれなりにはなってきました。開業医として4年目を迎えたがまだまだ勉強することばかりです。医学とは日進月歩で、若い頃の常識は通用しません。都立荏原病院にいた時はカンファレンスや抄読会を通じて若い医師と議論を重ねて新しい知見を重ねていましたが、開業医になりますとスタッフ以外は自分一人で過ごしています。新しいエビデンスを学び続けないと全く通用しない医者になってしまうので学会に出席し、オンラインセミナーで学ぶことがむしろ勤務医より大事に感じます。自分も今年還暦を迎えます。還暦の字の如くもう一度若返り、挑戦する心、前向きな心で毎日をを過ごしていきたいと思っております。

還暦を迎えて

今井 容子(●●)

このたび還暦という人生の節目を迎えることになりました。

開業してから、もうすぐ22年です。日々の診療は毎日が勉強の連続です。

2人の息子の子育てをしながらの、仕事と家庭の両立は、大変なこともありましたが、かけがえのない大切な時間であったと思っています。

今まで、何とか開業医としての仕事を続けてくる

ことができましたのも、スタッフや周囲の方々に恵まれたこと、また多くの皆様のご支援とご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。

医療を取り巻く環境は日々変化していますが、これからも初心を忘れず、引き続き研鑽を積んでいきたいと思っています。

私生活では、バイオリンを趣味としていますが、数年前に、勇気を出してアマチュアオーケストラに入りました。職業や年代も異なる仲間と、1つの音楽を作り上げる達成感は何事にも代えがたく、私にとって大切なリフレッシュの時間となっています。

また、学生時代から続けている水泳も長年の楽しみの1つであり、心身の健康維持の支えとなっています。

次の年女を元気で迎えられるように、これからも健康に留意しつつ、仕事と私生活の両方をより充実させていきたいと思っています。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

タイトル(仮)

宇都宮 幹子(池畔会)

田園調布医師会より午年お祝いをしていただき、さらに今回原稿をとの依頼を受けて、改めて年女であることを自覚しました。今年は丙午年、丙午といえは八百屋お七の放火事件から江戸時代以降災いの多い年とされ、私が生まれた1966年は出生率が25%も減少するという社会現象が起きました。お陰様で受験者数の歴史的低下がおき、恩恵を享受しました。

気性が荒い、男性を食い殺すといわれながら、女性が少なかった時代に医学生生活を過ごしたことも良い思い出です。2017年に田園調布医師会のお仲間に入れていただき、私を医学の道へ導いて下さった恩師の先生と幸運にも同じ医師会に所属することになり、開業直後に見舞われたコロナ禍でオロオロする私共をお支え下さった医師会の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

巡って二回目の丙午年を迎え、先日は伊勢神宮の神馬にお参りして参りました。毅然とした佇まいと静かで温和な表情に自身の在り方を教えられた思いでした。

丙午は強く激しい干支と言われています。今年は干支に含まれる火のエネルギーを力に変えてAIに負けず、DXなど吹き飛ばして天馬行空のように自由な想像力でこの厳しい時代を乗り越えて参りましょう。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

馬ですが、歩いています



小立 寿成 (久原)

申し訳ないことに、まだ、閉院の挨拶が出来ておりませんでした。1998年10月に開業、24年後に閉院し、後継者（上野克仁先生）にクリニックと診療を引き継ぎました。体力、気力と相談し、「70歳ぐらいで定年を」と思っていたので、勝手ながら、ほぼ予定通りに出来ました。在職中は会員の先生方ならびに事務局の皆様大変お世話になり、心よりお礼申し上げます。これからもB会員として、医師会活動には参加したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今年は午年なので、年明けには、近くの馬事公苑まで歩いて行き、健脚を願って、絵馬ならぬ競争馬の人形をもとめてきました。仕事を辞めてから体重が増え、いろいろと不都合が出てきて、昨年秋よりウォーキングを始めておりました。

自宅近くには、北沢川緑道と烏山川緑道があり、合流して目黒川へ。すこし南には蛇崩川緑道が中目黒まで続いています。これらを組み合わせて6kmから12kmまでのウォーキングコースを作り、ほぼ毎日楽しくホイホイ歩いて、新しい生活にリズムも出てきておりました。

と思っていたのですが、相談役のchatGPTに「目的が違う」「続かないよ」と忠告されまして、現在、パンツにiphone、腕にapple watch、耳にはair pods proを装着して、毎日毎日、6kmのコースを歩いています。高齢の障害馬(?)なのでゆっくりです。散歩の犬にも追い越されます。景色を眺めながら歩きます。

緑道では紅梅が終わって、メジロは桜へ移り、水仙や木蓮はまだ咲いています。少水魚有楽。

丙午の運・縁



永山芳子 (●●)

丙午の迷信で出生率がさがった年。迷信とは関係なく、私は墮胎されそうな局面を超え、無事誕生。合理的な母は、小児科医でしたが勤務中にレントゲンを浴びたので、リスクを考え、早期に胎児をおろしましょうと言うのを、実直な外科医の父が、授かりものだから、と止めた、そう知ったのは、私が30歳の頃でした。

友が妊娠中に感冒薬を飲み、子への影響を心配。「妊娠中の風邪くらいよくある。あなたもおろされるところだったが問題なかった、と言ってあげなさい。」と母。私は、初耳で、今まで話さなかった理由を尋ねると「すっかり忘れていた。」と母。父に、ありがとう、と感謝すると、そんなことあったような、と覚えていない。両親は、患者さんのことは、驚くほど覚えており、不思議がる私に、過ぎたことは、考えないと母。患者さんの事が気になると父。そんな両親は、ご近所の方の要請で勤務医を続けながら開業しました。

私は、元気に成長し、生まれ年の午年に何をしていたか。12歳のバレンタインは作りチョコレート。24歳、バブル真っ只中の医学生、海中ヘナイトダイブ、六本木のナイトダイブ。36歳医局人事を離れ民間病院へ。48歳、沖縄で上司の不当解雇問題に医局長として抗議。60歳になる今、自身が経営者となり、難しい局面もありますが、縁のある方のお役に立つよう、対面診療にこだり続けていきます。

「ミスタープロ野球」 長嶋茂雄さんのこと



令和七年六月二日、長嶋茂雄さんが亡くなった知らせを聞いた瞬間、「ああ、ついにその時が来たか！一時代が終ってしまったな」の思いが去来した。

畏れながら長嶋家とは多少のご縁があってそのことについて書き留めておきたい。

先ず長嶋さんの生年月日は、昭和十一年二月二十日、私も同じ年の一月二十五日の早生まれで、共に上京以来、同じ時代の空気を吸って来たことになる。

また、私の女房は立教大学一年生のとき、長嶋、杉浦、本屋敷のスター選手は四年生で六大学の最も華やかな時代であった。女子学生の少なかった当時、神宮球場の最前列に座らせられ、大声で応援したことをしきりに懐かしがっている。

わが家には、立教大学が優勝した時、選手全員のサイン入りの硬式ボールがある。そのボールは、聖路加病院に勤めていた女房の父が優勝祝賀会のとき、娘のためにサインをしてもらったものだった。

時代は流れ、私は三十四歳の時、大田区田園調布二丁目にある藤田病院（現・藤田記念耳鼻咽喉科）に勤務することになり、同じ敷地内に引越し、八十歳のとき次男・夏樹にバトンタッチした。田園調布三丁目にある長嶋邸は、田園調布駅を挟んでわが家からも屋根が見える距離である。

長嶋家の長男・一茂君と夏樹は田園調布小学校入学時からの親友で共に冒険、いたずら好きのガキであった。あるとき長嶋家のベランダに水を張ってプール、水槽代わりに魚を飼ったりして怒られたり、多摩川に通じる下水道管の中をくぐり抜けたりして家人を驚かせたりしたものだった。田園調布中学校時代には共にリレーの選手だったりして「竹馬の友、という間柄で、もはや還暦に近い二人であるが、いまだに親交を深めている姿はほほえましくもある。

次男の回想によれば田園調布中学校卒業式の日、長嶋さんの記念講演があり、そのお話の中で「自分は昔の人のことは知らないが、誰よりもゼツタイ一番練習をした自信がある」と強調して話されたことが今でも印象に残っていると言う。

また講演料をお渡ししたところ、奥様がそれで卒業記念のバラを植えて下さいとおっしゃった。そのバラは四十五年経った今も「長嶋ローズアーチ」と銘打って毎年五、六月頃、校門近くを鮮やかに彩っている。

現在テレビで大活躍している一茂君は、ハンサムにして会話のセンス頭の回転も抜群で彼の出るテレビ番組には必ずチャンネルを合わせて楽しんでいる。

長嶋さんが六十八歳の時、家で倒れられたときにも、一茂さんから次男に相談の電話を受けたり、病後、北海道で主催されているゴルフ大会主席の際にも付添い医師として自家用ジェット機で同行させてもらったこともある。

そんな関係もあって長嶋家の皆さんも、のどの調子の悪いときなどしばしば来院された。

長嶋さんが待合室に入られると、あの明るさと動作に独自の雰囲気が出されたものだった。今まで何万人も診察に来られて不思議なオーラを感じたのは、長嶋茂雄さん、石原慎太郎さん、仲代達也さん（九十二歳で現役）以外になく、やはり国民の人気のあるお方はさすがと思ったものだった。

また長嶋さんは、ゆかいなエピソードが多いことでも知られている。あるとき診察時、「先生のところのスリッパは小さいですね」と言われ「それはお子様用ですよ」と言って大笑いしたことを覚えている。診察が終ると「先生、看護婦さんも一緒に写真を撮りましょう」とサービス精神旺盛なこと然りである。

次女の三奈さんが父君が倒れて以来、自らを犠牲にして献身的に面倒をみられている姿に頭が下がった。

背番号3は消えるとも、その功績は日本国ある限り、それこそ「永遠に不滅」で、今頃天国からアメリカで大活躍している大谷選手に万雷の拍手を送っていることでしょう。

長嶋家の安泰とご冥福をお祈りいたします。合掌。

令和七年六月記す

第23回さくら会のご報告

去る3月8日土曜日、さくら会が田園調布倶楽部にて催されました。女性医師の集いである当会の開催は、毎年3月第二週の土曜日と定められ、今年で23回目を迎えました。

今回は、幹事含め16名の会員の先生方にお集まり頂きました。

皆様久しぶりの再開ということもあり、賑やかに会は始まり、美味しいお食事を頂きながら、恒例の一人ずつの近況報告タイムに移ります。エネルギッシュな方ばかりで、参考にはできません。ただ、そばでお話しを伺うだけで力を頂けるのがこの会の魅力です。その後は、席を移動しつつの歓談タイムです。診療、趣味、家族のこと、自身の健康相談、と話題は尽きず、雪の舞う窓の外とは対照的に春、を通り越して夏のような熱気に包まれて、あっという間に御開きの時間となりました。

幹事の至らない点もございましたが、無事開催できたことを皆様に感謝申し上げ、来年もお会いできることを願っております。また、新規に入会された女性医師の先生におかれましては、卒業年度、大学、科の垣根を越えた肩肘の張らない会ですので、是非参加をご検討くださいませ。

(幹事 ななこレディースクリニック新橋成直子先生 鵜の木さくらクリニック菊池麻沙美記)



第24回さくら会のご報告

少しずつ春めいてきた3月14日の夕刻、恒例の“さくら会”が九品仏駅の近くの和風料理“うしお”で開催されました。

“さくら会”は、田園調布医師会に所属し、開業医として、或いは勤務医として働く女性医師たちの集いで、今回で24回目を迎え23名が参加しました。

日頃、地域医療を支える医師として、妻として母親としてと、何足もの草鞋を履いて忙しく活躍されている先生たちにとり、肩の力を抜いて美味しいお料理とお酒を堪能し、同じような立場の仲間たちと交流を深める場は、貴重な息抜きの機会となっています。ベテランの先生方からは貴重な体験談や、人生後半のパワフルな楽しみ方を教えていただき、若い先生方からはタイムリーな医療情報の提供やそれぞれの趣味や近況報告がありました。楽しい時間は瞬く間にすぎ、店主の粋な計らいで活けられた大ぶりの美しい桜の枝を前に、集合写真を撮り散会となりました。

第131回臨時総会

令和7年3月22日田園調布医師会館において第131回臨時総会が開催された。午後4時、佐藤理事の司会により森山副会長の開会宣言及び内山会長の挨拶があった。執行部一任により、内山会長は長原組・光吉 光氏を議長に指名した。

次いで議長は出席者及び書面表決書提出者が、全会員の過半数を超えたことを確認し、本総会が成立する旨を宣言した。（会員数233名、出席者28名、書面表決書提出者数149名）。

議事録署名人の選出は議長一任により、立石淳一先生・上野克仁先生の両氏が指名された。



(1) 議 案

第1号議案 2025年度事業計画案について

2025年度事業計画案について、総務部、経理部、調査・広報部、学術部、医療保険部、福祉厚生部、公衆衛生部、学校保健部、地域医療部、地域福祉部、医療安全部の各担当理事よりそれぞれ説明がなされた。

次いで質問に移る。

質疑を問うも質疑なく、採決の結果全員挙手をもって賛意を表した。

議長は書面表決書提出者の全員が賛意を表しており、本件は原案どおり可決承認された旨宣言した。



第2号議案 2025年度収支予算案について

2025年度収支予算案について、経理担当 安達理事より説明がなされた。次いで質疑に移るも質疑なく、採決の結果全員挙手をもって賛意を表した。議長は書面表決書提出者の全員が賛意を表しており、本件は原案どおり可決承認された旨宣言した。



(2) 会員慶弔

2024年度物故者2名に対し、黙祷を行った。

また米寿、喜寿、古希に該当する会員を表彰し、代表として森山正敏副会長に記念品を贈呈した。



田園調布医師会政治連盟大会

総会に引き続き光吉光氏が議長に選出され、田園調布医師会政治連盟大会が開催された。まず内山委員長により2024年度一般活動報告がなされた。次いで安達委員より2024年度決算報告の承認を求める件に関して説明がなされた。質疑に移るも質問等はなく、採決となった。出席者は全員挙手をもって賛意を示し、議長は書面評決書提出者を含め本件が可決承認された旨を宣言した。

この後3階ホールに移り、会員懇親会が催され、暫し楽しく談笑した。

第132回定時総会

令和7年6月28日田園調布医師会館において第132回定時総会が開催された。午後4時、佐藤理事の司会により森山副会長の開会宣言及び内山会長の挨拶があった。執行部一任により、内山会長は長原組・光吉 光氏を議長に指名した。

次いで議長は出席者及び書面表決書提出者が、全会員の過半数を超えたことを確認し、本総会が成立する旨を宣言した。（会員数231名、出席者31名、書面表決書提出者数156名）。

議事録署名人の選出は議長一任により、立石淳一先生・上野克仁先生の両氏が指名された。

(1) 報告事項 2024年度事業報告について

2024年度事業報告について、①総務部、②経理部、③調査・広報部、④学術部、⑤医療保険部、⑥福祉厚生部、⑦公衆衛生部、⑧学校保健部、⑨地域医療部、⑩地域福祉部、⑪医療安全部の各担当理事よりそれぞれ報告がなされた。

その後質疑なく採決の結果、全員挙手をもって賛意を表した。議長は書面表決書提出者も全員が賛意を表しており、本件は原案どおり可決承認された旨宣言した。

(2) 議 案

第1号議案 今後の理事選任について承認を求める件

理事選任における定款の改定に関する説明が、佐藤理事より報告され、理事の任期、推薦方法についての説明がなされた。その後質疑なく採決の結果、全員挙手をもって賛意を表した。議長は書面表決書提出者も全員が賛意を表しており、原案どおり可決承認された旨宣言した。

第2号議案 2024年度田園調布医師会会計等の決算の承認を求める件

2024年度の決算における説明が、安達理事より報告され、法人制度改革により平成20年度公益法人会計基準により財務諸表が作成されており、2024年度決算報告についても①貸借対照表②正味財産増減計算書③財産目録を使って報告がなされた。

その後質疑なく採決の結果、全員挙手をもって賛意を表した。議長は書面表決書提出者も全員が賛意を表しており、①貸借対照表②正味財産増減計算書の原案どおり可決承認された旨宣言した。

監査報告

澁井展子監事・青木伸夫監事より、2024年度決算については5月13日に、経理委員会を開催し執行部6名・朝日税理士法人の山本氏・槻林氏・櫻井氏の基で会計監査を行い特に問題もなく、監査終了をしたことが発表された。

この後3階ホールに移り、会員懇親会が催され、暫し楽しく談笑した。



第133回臨時総会

令和8年3月28日田園調布医師会館において第133回臨時総会が開催された。午後4時、佐藤理事の司会により森山副会長の開会宣言及び内山会長の挨拶があった。執行部一任により、内山会長は長原組・光吉 光氏を議長に指名した。

次いで議長は出席者及び書面表決書提出者が、全会員の過半数を超えたことを確認し、本総会が成立する旨を宣言した。（会員数227名、出席者30名、書面表決書提出者数147名）。

議事録署名人の選出は議長一任により、立石淳一先生・上野克仁先生の両氏が指名された。



(1) 議 案

第1号議案 2026年度事業計画案について

2026年度事業計画案について、総務部、経理部、調査・広報部、学術部、医療保険部、福祉厚生部、公衆衛生部、学校保健部、地域医療部、地域福祉部、医療安全部の各担当理事よりそれぞれ説明がなされた。

次いで質問に移る。

質疑を問うも質疑なく、採決の結果全員挙手をもって賛意を表した。

議長は書面表決書提出者の全員が賛意を表しており、本件は原案どおり可決承認された旨宣言した。



第2号議案 2026年度収支予算案について

2026年度収支予算案について、経理担当 安達理事より説明がなされた。

次いで質疑に移るも質疑なく、採決の結果全員挙手をもって賛意を表した。議長は書面表決書提出者の全員が賛意を表しており、本件は原案どおり可決承認された旨宣言した。



(2) 会員慶弔

2025年度物故者1名に対し、黙祷を行った。

また米寿、喜寿、古希に該当する会員を表彰し、代表として富田喜文会員に記念品を贈呈した。

田園調布医師会政治連盟大会

総会に引き続き光吉光氏が議長に選出され、田園調布医師会政治連盟大会が開催された。まず内山委員長により2025年度一般活動報告がなされた。次いで安達委員より2025年度決算報告の承認を求める件に関して説明がなされた。質疑に移るも質問等はなく、採決となった。出席者は全員挙手をもって賛意を示し、議長は書面評決書提出者を含め本件が可決承認された旨を宣言した。

この後3階ホールに移り、会員懇親会が催され、暫し楽しく談笑した。



令和7年

医師会旅行 バス旅行



令和元年度以来となる日帰りバス旅行が、令和7年7月6日に開催されました。

今回の旅行先は千葉県房総半島。アクアラインを通り海ほたるで休憩後、市原の「さゆりワールド」へ。ここは市原ぞうの国の姉妹園、動物同士の共存・人間と動物の共存がテーマで、柵の無い環境で飼育されているキリンやカピバラ、カンガルー等の動物たちと間近で触れ合える珍しい動物園です。見る機会はあるけど、餌やりなど直接触れ合える機会はそうありません。中でも園内の「キリンテラス」ではキリンにおやつをあげることが出来、これには子供たちだけでなく大人の皆さんも大喜びでした。



昼食は木更津名物の海鮮焼店にて、参加者皆さんで新鮮かつ豊富な海鮮を焼いて舌鼓。

その後、養蜂家が造るはちみつとはちみつ酒ミードを味わう「はちみつとミードのはちみつ工房」へ。買い物の前に遠心分離機を使ったハチミツの搾り取り体験。巣箱から取り出した巣板をセット、ハンドルを回すとおいしそうなハチミツが出てきます。皆で試食をして“ハチミツ欲”が高まったところへ買い物へ。大人はハチミツ酒、子供はハチミツジュースの試飲を楽しみ、お土産購入タイムとなりました。



その後神奈川県久里浜港と千葉県金谷港を約40分で結ぶ東京湾フェリーにバスと一緒に乗船。広い船内、そしてそこから見える富士山や東京のビル群は好天も相まって絶景でした。船を降りてからは帰りのバスにて大きな渋滞にはまることもなく、ほぼ予定通りに医師会館へ到着、解散となりました。今年度も7月に開催予定です。皆様のご参加、心よりお待ちしております。

田園調布医師会 理事 福祉厚生部部长 神田 良介

